

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商圏内に大型スーパー2店が開店したことで競争が激化し、週末の新聞の折り込みチラシの枚数がうんざりするほどある。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・気温が下がってきたため、婦人衣料品関係は良い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・気候が良くなってきたためか、来客数の動きが良い。また、来店した客が購買につながっている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・涼しくなったことで来客数、購買量とも増え、客単価もかなり上がってきている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・新規オープンやリニューアルの祝いの花の需要があり売上は良かったが、通常の売上はなかなか伸びない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・9月に比べ気温が下がったことから、衣料品の動きが良くなっている。前月の反動の面もあるが、クリスマス商戦に向けてわずかながら勢いを取り戻している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は横ばいになっているが、野菜等の価格が大分安定し、客単価も前年を上回っている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・月半ばまでは例年よりも気温が高く、おでん・鍋・ホット商材の動きが鈍かったが、それ以降は気温も例年並みに下がり、おでん・ホット商材の動きが良くなっている。既存店では売上の前年比が前月よりも2%程改善した。また、新規オープン店舗もほぼ好調に推移している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	競争相手の様子	・近くの大型スーパーがまだ新装開店前なので、売上は前年より若干良い。オープン後はどうなるかわからないが、それまでは今のまま維持できる。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・地上デジタル放送の開始に伴って、大画面薄型テレビの需要が一段と伸びてきた。
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・来店客の増加がみられる。	
	変わらない	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・少し涼しくなり、徐々に日本茶の売行きも増加してきているが、例年に比べまだ減少傾向が見受けられる。会社事務所用の売上減少が大きい。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温の要因もあり、ミドル（55歳）以上の客の来店頻度、購買金額が上がってこない。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・当月下旬のクレジットカード催事で行った「現金1割払い戻し」では、レジ客数、売上共に前年を上回った。正価品の売上が伸びている。ただし、事前に商品を吟味し購入するという客の慎重さが引き続きみられる。また、客は、クレジットカードでの購入に対して引き続き慎重である。
百貨店（販売促進担当）		それ以外	・食品表示の不透明さ、原料高による商品の値上がり、天候の不順により客が買い控えをおこなっている。買いたいけれど気分的に買えないという状況になっている。	
百貨店（業務担当）		販売量の動き	・高止まりした気温の影響で、秋物の立ち上がりが遅れていたものの、急に冷え込んだため、幾分の回復がみられた。ただし、衣料品や雑貨の動きに力強さはなく、安定した動きとは言えない。	
スーパー（店長）		お客様の様子	・気温の低下もあり、衣料品が2けた以上の伸びを示した。しかしこれは一過性の動きである可能性も高く、景気の改善とは認識できない。	
スーパー（総務担当）		お客様の様子	・食品の値上げの影響はそれほどない。一方、衣料品はなかなか気温が下がらず、購買に結び付かない。客は必要性がないものについては買わないという状況である。	
スーパー（経理担当）		販売量の動き	・月前半は猛暑の余波が残っていたが、半ばから急に涼しくなり、秋冬物衣料、鍋物材料など本来季節として売れる商品が活発であった。全体としてはようやく持ち直した。	

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月に続き10月も天候が良く、主力商品である飲料、弁当等の売上が好調であった。行楽シーズンも重なり、前年をクリアした。客の買上点数は増加はしていないが、来客数が伸びた。
	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は上昇傾向にあるものの、単価は下降傾向である。客はまだまだ余裕のある生活をしていない。
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・気温が下がらず、ジャケットやコートの動きがない。いつまでもカットソーやチュニックワンピースが売れ筋で、客単価が上がらない。
	家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・家電関係は冷房が一段落し、季節の変わり目で一服感がある。
	乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・自動車販売については良くなっているが整備の方が厳しい。車検等で競争が非常に厳しくなっている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、メーカー仕入価格が上がったため10月より値上げした。法人客などは満タンまで給油するが、個人客は10リットル単位の給油もやや増加している。販売量は、前年に比べやや減少気味である。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・郊外型の大きなショッピングセンターができ、中心市街地の空洞化が進んでいる。消費のバイは限られているので、中心市街地にある店の景気がどんどん悪くなり、困っている。
	その他飲食[居酒屋]（店長）	競争相手の様子	・開店30年になるが、焼酎ブームで周りに10軒ほどの似通った店ができ、当店への客の流れが悪くなっている。
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、一般宴会、婚礼とも予算に程遠く、また前年比も割り込んでいる。
	観光型ホテル（営業担当）	お客様の様子	・観光に関するインターネットサイトや情報雑誌が多くなり、これまでに増して情報が増加したため、客はいかに安く内容が良いものを選ぶかを考えている。そのため、利益率が悪くなっている。また、館内での付帯設備の利用が少なくなっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国体のリハーサル大会もほぼ終了し、宿泊も新規ホテルのオープンで競争が激化している。宴会需要も例年とあまり変わらない。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・高単価商品がなかなか売れない。価格競争が激しく、利益につながらない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・天候も良かったため、観光施設はほぼ前年並みである。ただし、観光船などで100～200人単位の団体客が結構来ているため、それを差し引くと多少悪い。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・土地の問い合わせが非常に増えている。住宅を建てる需要もあるということで、今月は若干上向きになった。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・唐津くんちの時期ではあるが、なかなか買物ムードが感じられない。気温が高いせいもあり、衣料品が弱い。
	一般小売店[鮮魚]（店員）	来客数の動き	・とにかく来店数が伸びない。客単価が上がらないので非常に苦しい。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・気候の要因もあるが、本来売れなければいけない、ブーツ、コート等が売れていない。ただ、バーゲン等を仕掛けると売れ行きは良い。消費者の価格志向が、ここにきてやや鮮明になってきた。
	百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・中心街の空き店舗数が更に増えている。特に優良地といわれた商店街でも空き店舗が増えている。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・入店客数の割に売れていない。衣料品の売上が前年比90%台前半で推移している。同業の他店も良くない。また、外商等で高額品等の売上が若干悪くなり、単価も落ちてきている。消費税への不信という要因もあり、前年比ではここ半年で一番悪い。
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・当市の買物客は、近隣の県庁所在都市と市内の量販大型店に流出しており、低迷が続いている。さらに残暑が続く、今月中旬まで衣料品を中心に苦戦が続いた。食品催事等で動員を強化したものの、売上、客数とも前年実績を大きく割って推移している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・少子化、高齢化、景況の頭打ち感等の影響からか、食品消費に勢いが無い。加えて食品偽装や競合の激化、乳製品や油脂類の値上げの影響もみられる。

	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店ができたため、周りの店舗がチラシ広告による乱売をしており、売上が前月に比べ8～9%落ちている。もう1か月経つので回復の傾向にはあるが、厳しい状況が見受けられる。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・高単価商材の売行きが悪く、単価を下げている。来客数と売上の伸び率に2%の差が生じている。	
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・最近の消費の冷え込みが感じられる。高額商品の動き等が若干鈍っている。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・少し涼しさが感じられる日もあったが、日中の暖かさが客足を奪ったようである。天気によって左右される商いなので仕方がない。たまに来る客も、秋物には目もくれない。	
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・秋冬物の正価品がいちばん売れなくてはならない時期であるが、気温が下がらず、消費者の財布の状況も厳しいため、なかなか販売量が伸びない。いろいろなキャンペーンも行っているが、思ったほど効果が出ない。	
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・残暑が続く、秋物の売上が悪い。土日祭日の売上は前年割れで、特にミセス婦人服が減少している。宝飾品、呉服部門も前年割れである。売出し日の来客数も前年に比べ5～6%減少した。衣料品ではヤング部門だけが伸びたが、全体的には前年割れであった。	
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・格差がはっきり出てきている。大半の中流以下の人たちは、負担増による実質収入減のため購買意欲が低下している。今のところ改善の見込みはない。	
	その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・ガソリンの値上げの影響から、財布のひもが固くなりつつある。	
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数に関して、固まって来る日と、ほとんど入らない日との両極端に分かれており、1か月を通しての来客の流れが得られなかった。	
	スナック（経営者）	お客様の様子	・グループ客が少なく、活気が感じられない。また、懐具合を気にしながら飲んでいる客が目につく。	
	都市型ホテル（総支配人）	単価の動き	・地域全体でイベント開催が少なくなっており、限られた需要のなかでの価格競争が続いている。	
	都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・10、11月と市内で大きなコンベンション、会議等の大会ものが今年は少ない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー料金は10%ほど値上げになったが、その分の増収効果は全くなく、前年と変わらない。乗車数がそれだけ落ちており、客の財布のひもは固くなっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・客の話では、物が売れず人の動きが全くないという。特に夜の繁華街に客がおらず、空車が目立つ。	
	通信会社（総務担当）	それ以外	・販売金額がダウンしている。同時に客の選択肢が、単価の高いものからできるだけ安いものにシフトしている。	
	競輪場（職員）	来客数の動き	・前月に比べ来場者が減少し、同様に発売額も減少している。	
	競馬場（職員）	単価の動き	・客単価だけでなく来場者数も下げ止まらない。	
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・建築基準法が改正されたことで、確認申請書を出しても役所に滞っており、なかなか確認が下りない。そのため個人住宅等が建っていない。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年商店街をあげてセールをするが、今年は来街客数、売上単価、販売量ともかなり落ち込んでいる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者、来店客数とも前年に比べ減少している。
		衣料品専門店	来客数の動き	・今月に入り、気温が下がってきて来客数が増えるかと思ったが、あまりそうでもない様子なので、不安を感じている。
企業動向関連	良くなっている			
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・飼料条件が厳しい中で価格はやや上がってきているので、3か月前よりやや上向いている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・仕事は非常に増えているが、コスト面では更に厳しい。

変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・加工原料用の材料については、輸入物がほとんど国産物に変わったため、引き合いが強く、全部対応できない状況である。スーパー、居酒屋関連も、秋の行楽シーズンに入り相変わらず順調に伸びている。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、コンラクト家具の需要期は10、11月だが、見込物件が増えてこない。
	窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・中小企業はリストラ等がまだ進まず、人材が少なく、単価等の値上げもできず、厳しい状況である。原油の値上げや金利上昇等の不安要素から消費が伸び悩み、全体的には良くなっていない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の受注量については、3か月前から変化がみられない。特に半導体、大型表示パネル（液晶・PDP）関連の設備の引き合いはほとんど見受けられない。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・建築確認申請の手続きが改正され、確認申請が下りるのに時間が掛かっていたが、やっと順調に動き出し、数件工事に着手できるようになっている。計画から着工までの期間が長くなるが、条件は他社も同じである。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・公共工事の削減の影響がかなり大きく、倒産する企業も出てきた。県内全体でも建設、土木関連業種はかなり厳しい。これからも予断を許さない。
	経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・受給価格が下がったままで、もとに戻らない。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・各分野の取引業者が原材料・燃料のコスト高と販売不振で苦戦している。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・暑い日が続き突然の台風のせいもあり冬物が売れていない。すぐにバーゲンに入ってしまった、売上が取れない。もともとの生産量も少なく、売上也出ない。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ガス、ダンボール等の原材料が高騰している。また、商社においても同様の状態で、荷動きが少し悪い。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の状況は、9月まではフル操業で推移していたが、10月に入って急速に冷え込んだ。大手、中堅企業を問わず非常に鈍い動きが続いており、受注量も激減している。また、一般精密機械部品に関しても同様に下降線をたどっている。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の引き合いはあるが、契約の段階になるとなかなか話が進まない。こうしたことが稼働率に非常に影響し、発注が遅れるので残業で時間外の経費もかさんでいる。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・月末の荷動きが非常に悪い。これからの年末商戦に向けて商品をたくさん倉庫にストックしているにもかかわらず、出荷が出て行かないため、在庫が飽和状態になっている。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・アパレルや食品の動きが特に悪かった。
	金融業	取引先の様子	・原料高の影響が多くの業種に出てきている。
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・原油価格の高騰等、家計や企業に与える悪い要素が多くなっている。ここ半年間で貸出先の延滞が急激に増え、倒産が相次ぐ等、深刻な事態となっている。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・県内貸出金残高は、ここ3か月前年比プラスで推移しているものの、力強さは感じられない。一方、県内倒産件数は増加傾向にあり、中小企業への影響が懸念される。
悪くなっている	経営コンサルタント	それ以外	・売上、販売量に関して特に変化はないが、全般的に収益が悪くなっている。石油製品を中止とした値上げがいろいろな部分に広がり、仕入れ価格を押し上げている。販売価格を上げるところまでは行きつかないために、どうしても厳しい状況になってきている。
	その他サービス業 [物品リース] (従業員)	受注量や販売量の動き	・夏場までは大口の設備投資案件などに支えられ好調に推移してきたが、秋場に受注の伸びの勢いが小口化し、若干弱さが見え始めてきた。
悪くなっている	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の受注量・販売量の減少のみならず、新規建築物の大幅な減少や着工物件の工事遅延により、問屋・中小ゼネコン・工務店の契約が大幅に減少している。

雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人依頼はコンスタントに増えている。中小企業も採用が増えている。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・10月に入り、少し先々の採用を見越した問い合わせが増えてきている。このまま年末まで継続すれば実質採用増となる。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・大型商業施設が次々とでき、それに関する雇用の動きはあったが、既存の雇用の動きはそれほど変わっていない。業種によっては受注量も減り、残業もなく、辞めた後の補充もなく、そのままの所が多くある。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は増えていない。
		求人情報誌製作 会社(経営者)	それ以外	・年間行事において県内外からの集客をいちばん期待できる長崎くんちが3日間あったが、悪天候で経済的効果は予想を下回った。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・月間有効求人倍率は3か月前と同水準で推移している。
		職業安定所(職 員)	雇用形態の様子	・有効求人数、有効求職者数とも前年に比べて増加しているが、正社員の求人が伸び悩み、就職件数に結び付いていない。
		職業安定所(職 員)	採用者数の動き	・高校生の就職内定が始まったが、9月末現在の内定率は44～45%とほとんど変わらない。県外からの募集については内定が大分増えているが、管内については募集が多かったせいか、内定は微減もしくは横ばいである。
		民間職業紹介機 関(支店長)	採用者数の動き	・求人需要はわずかながら減少したが、派遣労働者の採用者数の減少の方が大きい。企業が直接雇用するケースが増加している。優秀な人材供給の面で難が出ている。
	学校[大学] (就職担当者)	求人数の動き	・来春卒業予定者を対象とした秋採用・通年採用の活動はやや終息気味であるが、企業からは、平成21年3月卒業予定者を対象とした求人関係の相談が増えており、総じて企業側の求人意欲は従前と変化がない。	
	やや悪く なっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・例年9、10月は求人件数が増加するが、今年は前年と比べると10%近く市場件数が落ち込んでいる。
		職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・自動車販売会社の自主廃業、宿泊業の業務縮小の動きがみられる。
		民間職業紹介機 関(社員)	求人数の動き	・派遣需要は前年並みで、盛り上がりには欠ける。年末に向けた販売促進案件の派遣依頼が発生しているが、九州地区の半導体、電機業界では一部生産調整に入っている企業もある。また、1企業のなかでも、担当製造分野・機器・機種によって工場の繁忙に差があり、人材需要が伸びていない。
悪く なっている	-	-	-	